

第4回 誰もが自分らしく生きるために

～男・女の枠を超えて、多様な性を知ろう～

講師：中島 潤 氏

***** プロフィール *****

東京外国語大学卒業。IDAHO（アイダホ）アクションへの参加をきっかけに、性の多様性をテーマにした発信活動を開始。その後、早稲田大学公認学生団体（現在NPO法人化）Re:Bit（リビット）のメンバーとして、関東圏の高校・大学等での出張授業や教育関係の研修を行う。現在、NPO法人「LGBTの家族と友人をつなぐ会」メンバー。各地の教育系研修会や企業勉強会等で、「多様な生と性」をテーマにした発信を続けている。

★★★★★ 講演 ★★★★★

福岡市人権教育研究会 埼玉県北足立地区人権教育研究集会 東松山市人権啓発研修会
三郷市教育委員会人権セミナー 埼玉人権啓発企業連絡会人権問題研修会 さいたま市管理職人権教育研修会 埼玉県養護教員会研修会等

「性」と生活・多様な性のイメージ

私たちの日常生活の中で、性や性別というのが関わってくる場面、思いのほかたくさんあるんです。トイレに入るとき、私たちは無意識にどちらの入口から入るかということを選択して使っています。履歴書にも男女欄というのがありまして、どちらかに丸を付けるという仕組みになっています。

多様な性と聴いてぱっと思い浮かぶものがありますか？では皆さん、この方をご存じですか。皆さん知っていますね、マツコ・デラックスさんです。もうテレビでお見かけしない日はないというくらい、ご活躍です。こちらの方はどうですか？KABA. ちゃんさんですね。最近、性別適合手術といって、体を変える手術をされて、戸籍上の性別を男性から女性に変更されました。このお二方、何となく、いわゆる一般的な男女ではなさそうだなと感じていらっしゃる方も多いと思うんですが、でもじゃあどう違うのって言われたら、説明ができますか？このお二方、確かに多様な性のイメージの回答の1つになっていると思います。

私たちは性というと何となく、男女っていうのに引きずられがちだと思うんです。でもそれはしょうがないことで、例えば戸籍の性別は2種類しか選択肢がありませんし、何かに申込みをしようと思ったときの選択肢も、男性、女性の2通りしかありません。そんな世の中で生きてると、性別イコール男性か女性かという2つだよ、と思いがちです。今日は、まずそれが、実はそうじゃないんだよ、もっと多様な性の在り方を捉えることができるんだよというところからお話を始めたいと思います。



セクシュアリティの4指標

今日は、ふだんの性別欄から離れて、4つの指標を用いて「性の在り方」を捉えてみましょう。

- ① からだの性（生物学的性）
- ② こころの性（性自認）
- ③ 表現する性（社会的性）
- ④ 恋愛対象の性（性的指向）

という4つです。それぞれの指標について、どのくらい男性度合い・女性度合いがあるか、ということを示すことで、誰かの「性の在り方」を表現することができます。ふだんの性別欄で「女性」としてくくられる人同士であっても、「性の在り方」という観点から見れば、「こころの性：自分の中の男性的な側面をどう認識しているのか」「表現する性：どのくらい女性らしい服装をしているのか」等、一人ずつ違った在り方をしています。

からだの性・こころの性

体の性について、「体の性は、男女の2つだけだろう」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、人間の性は、染色体・性腺・内性器・外性器等、さまざまな要素の組み合わせで構成されており、私たちが思っているより幅のあるものです。例えば、染色体を例にとってみると、生物の授業に出てくる「男性型XY・女性型XX」のほか、XXY、XYY、XXX等の組み合わせがあることが知られています。体の性も、個人差があるのが自然だ、ということです。

では、心の性はどうかでしょうか。心の性、性の自認は、体の性と別の要素として考え、これも個人差のあるものです。体の性と一致する人が多いですが、科学的にいうと、一致する人と一致しない人がいます。それぞれに名前が付いていて、一致する人のことをシスジェンダー、一致しない人のことをトランスジェンダーと呼びます。なんとなくトランスジェンダーの方は、ことばとして有名になっていますよね。というのもシスジェンダーの人は、「普通の人」と呼ばれているからです。でも、普通の人と普通じゃない人がいるんじゃない

くて、シスジェンダーの人とトランスジェンダーの人がいるということです。

表現する性

この赤ちゃんのイラストをご覧ください。向かって左が男の子の赤ちゃん、右が女の子の赤ちゃんに見えますよね。では、次にこちらの写真をご覧ください。イラストと同じく2人の赤ちゃんが写っていますが、どちらが男の子で、どちらが女の子か分かりますか？分からないですよね。赤ちゃんって、もともと男の子か女の子かよく分からない生き物ですよね。胸があるわけでもないし、ひげが生えているわけでもないし。でも、それがイラストになると、こうなるわけです。水色の洋服とピンクの洋服を着せて、活発な髪形とおとなしい髪形にして、女の子の方にぱちっとまつ毛を付けると、男の子の赤ちゃんと女の子の赤ちゃんが出来上がるわけです。ちょっと不思議だなと思っていただけますでしょうか。でもこれって、赤ちゃんだけに当てはまるものではなくて、私たちが社会で生きていく中で知らず知らずのうちに身に付ける、男らしさや女らしさという概念ととても密接に関わっています。実にさまざまな場面で、これって男らしさの要素だよねとか、これって女らしさの要素だよねって、社会的に決められたものがあり、それを基に、誰かの社会的な性別というのが判断されていきます。この社会的な性、ジェンダーは、「男らしく/女らしくしなさい」というかたちで押し付けられると、息苦しくなるものでもあります。

恋愛対象の性

恋愛対象の性についても、「普通の人」と呼ばれる人がいます。自分が男性で女性を好きになる人、もしくは、自分が女性で男性を好きになる人です。しかし、人をどのように好きになるか/ならないかというのも、実は多様な在り方があります。先ほどの、男女の恋愛は「異性愛」と呼ばれる「好き」の在り方です。そのほかにも、同性愛、両性愛、Aセクシュアルなどがありますが、日本において保護してもらえる「好き」の在り方は「異

性愛」だけです。この、恋愛対象の性について、「それは恋愛のことで、個人的なことでしょうか？」という声を聞くことがあります。そうではありません。なぜなら、これは「誰と家族になり、どうやって生きていくか」という人生の選択につながるからです。世界には、同性愛が犯罪とされている国もあります。日本では、犯罪とはされておらず、その意味では安全かもしれませんが、人権という観点で、みんなが同じ権利を享受できているかというふうに考えると、まだまだこれから考えていかなければいけない部分もあるんじゃないかなというのが個人的な思いです。

LGBTについて

人の数だけ多様な性がある中で、典型的な男女型に当てはまらない人たちのことを、総称して「LGBT」と呼ぶことがあります。セクシュアルマイノリティと言ったり、性的少数者と呼んだりしますが、今日はこの「LGBT」という単語をご紹介します。Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシュアル、Tはトランスジェンダーの頭文字をとったものです。今の日本語の中には、これ以外にもさまざまな典型的な男女ではないという人たちを指すことばがあふれています。あえて申し上げますと、オカマとかホモとかそっち系とか、レズとかオネエ系とかおなべとかニューハーフとか、あとちょっと違いますけれど半陰陽とか、ざっと思いつく限りでもこれぐらいあります。でも、今私が言ったことばは、すべて誰かを傷付けてしまう可能性を持つことばたちです。なので、このテーマについて誰かと話をしようと思ったときは、正しい単語を使ってお話をさせていただきたいなと思い、単語を紹介させていただきました。レズビアンをレズと短縮して呼ぶというのも、侮蔑語、差別語に当たるとされることがありますので、お気をつけください。

そして、もしかすると、性同一性障害ということばのほうが馴染みあるなという方がいらっしゃるかもしれませんが、この性同一性障害というのは、医学的な診断名です。人の集団としては、

トランスジェンダーというふうに指した方が無難なことが多いです。

なぜLGBTについて知る必要があるのか

LGBTについて、なぜわざわざこんなふうに時間をいただいておりますのかといただきますと、理由はとても簡単です。きっとこの人たちは、皆さんの身近にもいるからです。国内の人口比率が7.6%という調査結果もあります。これは、13人に1人という割合です。LGBTかどうかは見た目では分からないため、身近にいてもその存在が見えていないということが考えられます。自分には関係のない話と思わず、自分にもつながりのある話として考えていただければと思います。

もう1つ、正しい情報を知っていただきたい理由があります。それは、国内の多様な性に関する現状が、まだまだ理想的なものには程遠いからです。メディアでは、「オネエ系」と呼ばれるタレントの方をお見かけしますけれども、例えばLGBTの会社員とか、政治家とか、スポーツ選手とか、あまり見かけないですね。そう考えると、まだ偏った情報があるんじゃないかなと思います。そして、往々にしてオネエ系の方って、笑われる対象になっていませんか。誰かに相談したいなと思っているけど、みんなネタにしているし、相談できる人がいないと感じる。将来像が描けない、悩みを誰にも打ち明けられなくて、生きていくのがつらいなと思ってしまう状況があります。

特に、子どもたちの現状は深刻です。学校現場での調査結果も踏まえて考えると、自殺につながるぐらいの生きづらさを抱えているかもしれません。身近な大人が正しい知識を持ち、肯定的な情報を発信していくことが必要だと思います。

私たちができること

多様な性があるということを前提にして、じゃあ、多様な性の人でも安心して自分らしく過ごせる場所を作るには、私たちはどんなことができるのかということを考えていきたいです。

例えば、皆さんの親しい友人、もしくは職場の同僚や近所の人の中に、もしかしてこの人は性的

少数者なのかなと思う人がいるとします。本人から話はされていませんが、最近うわさになっているのを聴きました。この時、私たちは「近くの人」として、どんなことができるでしょうか。

皆さんからも意見が出ましたが、“特に何もせずに今までどおりのおつきあい続ける”というのがいいんじゃないかと思います。究極的に言うと、これの正解は別に何もしないということです。絶対してはいけないのは、うわさ話を一緒になって笑う、セクシュアリティを無理に聞き出す、ということです。もし、少し勇気が出せるなら、「個人的なことをうわさするってよくないと思う」と言うてみるのもいいかもしれません。

それから、「私は味方だよ」ということを、「6色の虹のマーク」を使って示す、というのいいかもしれません。6色の虹は、LGBTを含めた多様な性の在り方を尊重しましょうというシンボルマークになっています。この6色の虹のマークを身につけていただくだけでも、この人は相談しても大丈夫な人らしい、というサインになります。公共施設などに掲示すれば、皆さんのお住まいの地域にも必ずいるLGBTの人たちに向けて、「一緒に生きてること、分かっていますよ」と発信することができます。

また、今日会場に置いてあるような、セクシュアリティに関わる本を読んでみる、というのも、個人でできる取り組みだと思います。朝霞市の図書館にも蔵書がありますので、ぜひ手にとってみてください。



まとめ

LGBTかどうかは見た目では分かりません

が、必ず皆さんの近くにLGBTの人はいます。また、LGBTかどうかに関わらず、ここに集っていらっしゃる皆さんにとっても、セクシュアリティ、性の在り方というのは人権です。是非、ご自身のセクシュアリティ、性の在り方を、今日をきっかけにもう一度考えてみていただいて、もっと自由に、女らしさ、男らしさに縛られず、もっと自分らしくあっていいんだなというふうに思っていたら、それに勝るうれしいことはありません。

そして今、ネットからの間違っただけの情報を鵜呑みにして、自分は変なんだな、自分は生きていちゃいけないんだと思ってしまう子どもがいます。お子さんをお持ちの方、近くに子どもがいるという方、「あなたの性、あなたの生き方は、あなたの権利なんだよ」「人と違うって変なことじゃないんだよ」と伝えてあげてください。

今日のセミナーを受けたからといって、明日からLGBTの人にどう配慮していこうかと悩む必要はありません。みんなが住みやすい町ってどういうところだろうかと考える視点の1つに、多様な性という視点も入れていただけるとうれしいです。

※この報告書は、あさか女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員が作成しています。

参加者ひとこと感想

- 男女だけでなくさまざまな性があること、そういった子ども・人に対する接し方を教えていただいて勉強になりました。少しのことで何かができるんだと思いました。大人が正しい知識を持つことが大事だと思いました。
- ニュース等でLGBTを目にすることが多くなりましたが、具体的にどういうことなのか学ぶ機会がありませんでした。大変分かりやすい講義で、今後自分の中で知識として身につけていき、毎日の生活の中でも考えていけたらと思います。ありがとうございました。